

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成27年度）

－ 研究課題 2 中学校 －

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

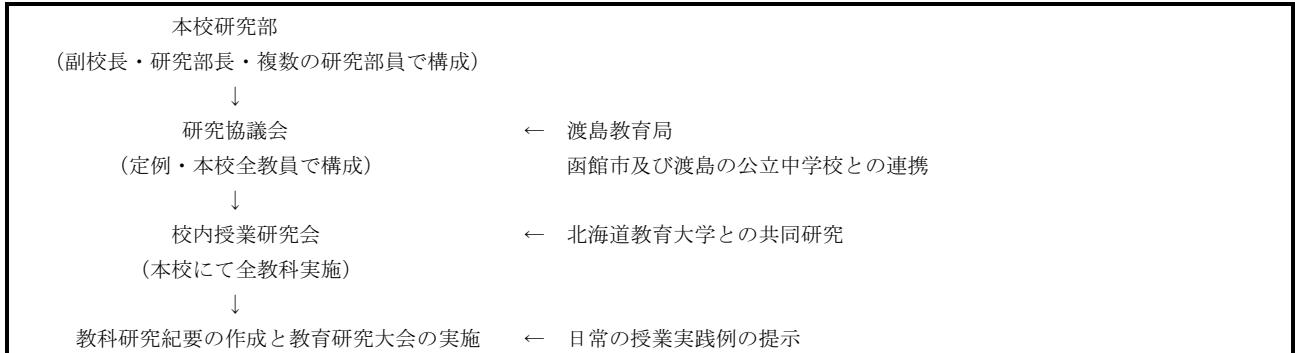
ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校				ふりがな 校長氏名	はねだ ひでみ 羽根田 秀実
所在地	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48-6 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 e-mail gunji.naotaka@h.hokkyodai.ac.jp					
(H27.4.1現在)	1年	2年	3年	計	(H27.4.1現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 18名	
生徒数	106	107	117	330	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 3名	
特記事項						

2 研究主題

教科等名	社会	教科課題番号等	2
当センターが提示した研究課題	問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究		
学校における研究主題	問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫・改善 ～「単元を貫く学習課題」の設定に基づいた指導方法等の工夫・改善～		
研究主題設定の理由	<p>本校では、平成25年度に「今、求められる21世紀の学力の育成を目指して」という学校研究主題のもとで、これからの社会において求められる資質や能力の育成を目指す研究計画を立てた。また、副主題を1年次（平成25年度）は、「知識・技能を活用する力を育む学習指導の工夫・改善」、2年次（平成26年度）は、「教科・領域を横断した基礎力・思考力・実践力の向上」とし、各教科で実践・研究を重ねてきた。</p> <p>これまでの研究から、各教科での基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の工夫・開発や、その検証改善サイクルの整備を行い、一定の成果を上げることができた。しかし、その評価場面において、これまでに研究してきた言語活動を取り入れた思考力・判断力・表現力との関係をより一層明確にしていかなければならないという課題が見られる。</p> <p>そこで平成27年度は、社会科（とくに公民的分野）において、単元を通して追究する学習課題設定の工夫や、問題解決のプロセスに応じた指導方法の検討、習得した知識や技能がどのように活用されているかの整理及びそのために求められる指導方法の検討などを通して、問題解決能力の育成を目指し、本研究主題を設定した。</p>		
研究の内容や方法等	<p><研究の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度までに、とくに公民的分野で実施してきた学習課題の整理・分析した結果とともに学習指導要領の趣旨を踏まえて設定する問題解決的な学習の課題である「単元を貫く学習課題」を含んだ単元構成表の作成（とくに実施する単元「(1)私たちと現代社会 イ 現代社会をとらえる見方や考え方」「(2)私たちと経済 イ 国民生活と政府の役割」「(3)私たちと政治 イ 民主政治と政治参加」「(4)私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大」) 単位時間における基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の教材開発（具体的に実施する単元は先に示したものと同一） 映像を用いた授業内容の記録による授業の分析と評価 問題解決能力の育成を見取るテスト問題の作成（全学年で実施） <p><研究の方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度までに公民的分野で実施してきた学習課題の整理・分析とともに、それらの学習課題やテスト問題に対する本校生徒の実態の分析を行う（平成27年5月）。 全教科での校内授業研究会の実施（平成27年6月～7月実施予定） 本校定例の教育研究協議会の実施（年間を通して隔週ごとに実施） 函館市及び渡島の公立中学校との研究協議会の開催（函館市中学校社会科教育サークルと連携しながら随時実施） 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究紀要の作成と発行（平成27年10月作成予定） ・教育研究大会の実施（平成27年10月30日）
成果の検証方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のプロセスに応じたワークシート等への生徒の記述状況によって、単位時間における基礎的・基本的な知識・技能がどのように活用されているかを把握・分析する。 ・問題解決能力の育成を見取るテスト問題への解答状況を把握・分析する。 ・映像による授業内容の保存と、映像を利用した授業評価を行う。 ・PDCAサイクルでのカリキュラム評価を実施し、これまでの指導を見直し、単元構成表の工夫改善を行う。 ・問題解決的な学習の授業実践と映像による集積と分析を行う。

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
一 年 次	5月	平成26年度までにとくに公民的分野で実施してきた学習課題の整理・分析した結果とともに学習指導要領の趣旨を踏まえて設定する問題解決的な学習の課題である「単元を貫く学習課題」を含んだ単元構成表の作成	これまでの実践と発達段階及び学習指導要領における単元の配列・学習の系統性を意識して設定した「単元を貫く学習課題」を含めた単元構成表ができ、それに基づいた実践・研究をPDCAサイクルの中で行っていくことができる。
	6月～7月	校内授業研究会の実施	校内授業研究会及び日常の授業実践により、実践上の課題が明らかになる。
	7月	問題解決能力の育成を見取るテスト問題の作成・実施	問題解決能力を見取るに資する設問及び解答方法等が明らかとなり、実践・研究の評価を行うことができる。
	8月～2月	単元構成表に基づく授業実践及び研究成果の検証	設定した「単元を貫く学習課題」や開発した教材に関する有効性・有益性が明らかになる。
	10月30日	教育研究大会の実施	授業公開及び研究発表を行い、全国の公立中学校や他附属との交流を通して、本研究の成果と課題が明らかになる。
	11月	問題解決能力の育成を見取るテスト問題の作成・実施	問題解決能力を見取るに資する設問及び解答方法等が明らかとなり、実践・研究の評価を行うことができる。
	3月	単元構成表及び問題解決能力の育成を見取るテスト問題の見直し	1年次研究の成果と課題が明らかになる。
二 年 次	4月～10月	見直しをした単元構成表に基づく授業実践及び研究成果の検証	設定した「単元を貫く学習課題」や開発した教材に関する有効性・有益性が明らかになる。
	7月・11月	問題解決能力の育成を見取るテスト問題の作成・実施	問題解決能力を見取るに資する設問及び解答方法等が明らかとなり、実践・研究の評価を行うことができる。
	10月	教育研究大会の実施	授業公開及び研究発表を行い、全国の公立中学校や他附属との交流を通して、本研究の成果と課題が明らかになる。
	11月～2月	単元構成表に基づく授業実践及び研究成果の検証	当初の指導計画・指導内容に改善を加えつつ研究を継続する。
	3月	問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究のまとめ	研究の成果と課題が明らかになる。

5 研究のまとめや成果の普及方法等の見直し

<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の成果にかかわる実践事例、評価の観点・評価の基準等の評価関係資料などの成果について、情報通信技術を活用し、北海道地域での共通化を図るよう工夫する。また、成果を本校ホームページで広く公開する。 ・北海道教育大学が平成23年度から取り組んでいる「学力向上プロジェクト」と連動し、その成果の普及を図る。
--